

ガイアの季節



撮影：神経内科医師 森 正孝

基本理念

- 一. 私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一. 私たちは保健・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

- 診療科紹介【整形外科】2
- 副院長就任あいさつ3
- 進化する医療現場／健診プラザ4
- 緩和ケアサロン「すずらん」の紹介5
- 岐伯鍼灸院院長だより6
- しまばら地域連携施設研修会6
- 現場を直撃取材／ガイアの里訪問リハビリ7
- 栄養の日／栄養科「栄養ワンダー」イベント開催7

わたし達の町のー医療をサポートー 医療法人伴帥会 広報誌 ガイアの季節 第30号ー9月発行

発行／医療法人伴帥会 愛野記念病院

伴帥会グループは地域の医療・福祉をトータルでサポートします!!

愛野記念病院



【受付時間】
月～金 午前 8:00～午前 11:30
午後 1:00～午後 5:00
土曜 午前 8:00～午前 11:30

【診療時間】
月～金 午前 9:00～午後 0:30
午後 2:00～午後 5:00
土曜 午前 9:00～午後 0:30

【休診】日曜・祝日 第2土曜日

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲 3838-1
TEL. 0957-36-0015(代) FAX. 0957-36-1027

【診療科目】

整形外科、内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、外科、消化器外科、脳神経外科、形成外科、リハビリテーション科、アレルギー科、リウマチ科、皮膚科、耳鼻いんこう科、心療内科、麻酔科、放射線科

※救急の場合は24時間対応いたします。玄関は、7時30分に開けます。
※当院は、予約制となっております。

愛野記念病院 健診部門「健診プラザ」



- 生活習慣病予防健診
- 雇用時健診
- 企業健診
- 特定健診
- がん検診
- 人間ドック

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲 3838-1
TEL. 0957-27-5757 FAX. 0957-36-0070

愛の訪問看護ステーション

- 在宅での看護ケアの提供
- 医師の指示による点滴、医療処置の実施
- 日常生活の介助
- 看護学生の実習受け入れ

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲 3838-1
TEL. 0957-36-3370 FAX. 0957-36-3380

愛野記念病院ケアマネジメントセンター

(居宅介護支援事業者)

- 要介護認定申請の代行業務
- 介護プランの作成
- 居宅サービスの調整や施設サービスの紹介
- 介護保険全般に関するご相談

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲 3838-1
TEL. 0957-36-3382 FAX. 0957-36-3405

愛野記念病院 訪問リハビリテーション

TEL. 0957-36-1825 FAX. 0957-36-1847

介護老人保健施設 ガイアの里

ガイアの里 通所リハビリテーション

ガイアの里 訪問リハビリテーション



- 介護老人保健施設(入所)
- ショートステイ(短期入所)
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町乙 2314-1
TEL. 0957-36-3550 FAX. 0957-36-3553

グループホーム ●椿高野 ●山椿



- 生活リハビリ
- 認知症の進行緩和
- 認知症デイサービス

〒854-0302 長崎県雲仙市愛野町乙 2314-5
TEL. 0957-36-3558 FAX. 0957-36-2618

岐伯鍼灸院



- はり、灸施術
頭痛、肩こり、腰痛、
ひざ痛、内科的な疾患
などの緩和と回復

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲 3835-1
TEL. 0957-36-0134



看護師副院長の役割について

- ◎患者様中心のチーム医療の充実に尽力します。
- ◎地域の健康を見守り支える為の職責を担います。
- ◎優れた看護師育成と人材確保に務めます。



副院長兼看護部長・認定看護管理者
砂川 佳子

これまで医師がほとんどであった病院の副院長ポストに看護師が就任するとは、なんと珍しいことかと思われる方も大勢おられるでしょう。

この看護師副院長という職位の人は、約20年前の日本には数名ほどしかいませんでした。その後、毎年2.5倍の割合で増加し、今や長崎県でも多くの病院が配置するようになりました。

今回、開設以来100年の歴史をもつ愛野記念病院に於いても、3名の副院長（医師）に加えて、初めて看護部長に兼副院長という職位が充てられました。このことは、看護職員を大切にしていることのあらわれであり、病院の評価やステータスを高めるものでもあります。

さて、今回はその業務内容についてご紹介させていただきます。

病院の医師は患者様の病気を治すために、常に自分の業務に専念する必要があり、そのためには常にサポート能力に長けたスタッフの協力が重要です。つまり、患者様を中心としたチーム医療の充実が求められ、とくに高い知識と実践能力のある看護師の育成と人材確保が必須です。

しかしながら、医師不足、看護師不足が年々深刻化する中、患者様やご家族と一番身近に接して、多職種との連携に於いてもその中心的な役割を果たす看護師の視点や実践能力は貴重で不可欠なものと言えるでしょう。

国は労働者の働き方改革法案の実施を義務化しました。しかし医師の働き方改革は後回しとなり、その負担軽減策としてタスク・シフティング（業務移管）の考えから、認定看護師・専門看護師の養成、特定行為に係る看護師の研修受講者の拡大、ナースプラクティシ

て対処しておりますが、それではどうしても治せない患者様が多くでてまいりました。そこでは、脊椎脊髄の手術ができれば患者様の痛みに対して対処できないと考え、脊椎脊髄外科の研鑽を始めました。貝田理事長先生や愛野記念病院の全面的なバックアップのおかげで約5年後に、日本脊椎脊髄病学会の指導医を取得することができました。その当時は手術で治すことが最終兵器だと信じていましたが、FBS（腰椎手術を一回以上行っても症状改善されず成績不良例に対しては再手術で改善できないこと）がほとんどです。またCRPS（複合性局所疼痛症候群）に対してはどんな治療をほどこしてもなかなか改善できない症例が数多くあります。そこで出会ったのが脊髄刺激療法です。最初はその効果を私自身半信半疑でした。たまたま仙骨部多房性嚢腫の患者様に出会いました。その方は多くの鎮痛剤を服用しても1日中耐え難い痛みを訴えており、独歩ができない状態でした。手術で改善ができないか色々な先生に聞き調べましたが、手術を行うと逆に悪い結果になることが判明しました。そこで、第1例目として脊髄刺激療法を行ったところ耐え難い痛みが半減し、本杖歩行ができるようになったのです。それ以来、現在まで約6名に植込術を行い、ほとんどの方がペインフリー（痛みが軽減）になって快適に日常生活を送られています。

患者様に寄り添い、痛みのない生活をサポート

整形外科医 中村 隆幸

整形外科は、現在各分野の専門性が高くなり、整形外科各人の得意分野があります。したがって、私のこれまでのプロフィールを述べることで、紹介にかえさせていただきます。

長崎大学病院での研修医を経て、大分県立病院で麻酔科の研修を行いました。その当時、持続硬膜外麻酔と全身麻酔との併用がよく行われていました。そこで、硬膜外ブロックの技術を学びました。それ以来、現在まで様々な原因による腰痛症の患者様に対し、硬膜外ブロックを行い、少しでも疼痛を和らげるように努めてきました。

卒業5年間は、関連病院を巡り、一般整形（主に外傷）を勉強しました。その後、長崎県立整形外科（現在の長崎県立こども医療福祉センター）に約19年間勤務いたしました。その間、脳性麻痺に対する手術療法及びボトックス療法、先天性股関節脱臼の保存及び手術療法、先天性内反足に対するギブス療法及び手術療法、先天的な低身長や四肢変形を生じる各疾患に対して創外固定器を用いた治療（脚延長術や変形矯正術）を行ってまいりました。

近年高齢化社会を迎え、重度の骨粗鬆症による「いつの間にか骨折」（脊椎圧迫骨折）の患者様が増えてきました。圧迫骨折により耐え難い痛みがある方や偽関節に陥ってしまった方に、現在までハイドロオキシアパタイト（HA）による経皮的椎体形成

て対処しておりますが、それではどうしても治せない患者様が多くでてまいりました。そこでは、脊椎脊髄の手術ができれば患者様の痛みに対して対処できないと考え、脊椎脊髄外科の研鑽を始めました。貝田理事長先生や愛野記念病院の全面的なバックアップのおかげで約5年後に、日本脊椎脊髄病学会の指導医を取得することができました。その当時は手術で治すことが最終兵器だと信じていましたが、FBS（腰椎手術を一回以上行っても症状改善されず成績不良例に対しては再手術で改善できないこと）がほとんどです。またCRPS（複合性局所疼痛症候群）に対してはどんな治療をほどこしてもなかなか改善できない症例が数多くあります。そこで出会ったのが脊髄刺激療法です。最初はその効果を私自身半信半疑でした。たまたま仙骨部多房性嚢腫の患者様に出会いました。その方は多くの鎮痛剤を服用しても1日中耐え難い痛みを訴えており、独歩ができない状態でした。手術で改善ができないか色々な先生に聞き調べましたが、手術を行うと逆に悪い結果になることが判明しました。そこで、第1例目として脊髄刺激療法を行ったところ耐え難い痛みが半減し、本杖歩行ができるようになったのです。それ以来、現在まで約6名に植込術を行い、ほとんどの方がペインフリー（痛みが軽減）になって快適に日常生活を送られています。



神経刺激装置 植込みイメージ
日本メドトロニック提供

成術を、当院で約300例行ってきました。HAは体内の成分の一部で異物反応を起こさず、HAブロックは無数の孔を有しており、そこに血液が入り込み、骨がじわじわと出来てきます。また、石垣状にブロックを椎体内に入れるので、座位や立位で体重（重力）が加わってもうまく力を吸収してくれます。その為、他の病院でやられているセメントを使う方法（BKP）に比べて、重大な合併症である隣接骨折の頻度が約10分の1となっております。隣接骨折を起こすと更なる手術（後方及び前方固定術）を行うことになり、高齢の患者様にとっては多大な負担を強いることになってしまいます。

以上のように、これまで整形外科医師として歩んできた道のりをふりかえってみると、私のやってきたことは「痛みのある人の苦しみを少しでも和らげるように手助けをする」に尽きます。これからも様々な痛みで苦しんでいる患者様に対し、最善で最小侵襲の方法でサポートさせていただければと思います。



ナー養成、などを推進しています。

それに伴い、看護師への診療報酬加算が認められるようになりました。病院では医師の診察や手術、検査技師などによる諸検査、理学療法士等によるリハビリなど、個々の業務に対する報酬が決まられています。それに加えて算定要件に係る看護業務が徐々に増加し、これに対する看護師副院長としての役割としては、病院全体の質を高めるための看護技術力向上、組織横断的に動ける人材の確保、他部署に介入してチームワークを密にする行動力、などがあります。

煙たがられる立場かもしれませんが、地域の皆様方の健康を見守る・支える病院として貢献できるように、この職位を大切に、職責を全うしていきたいと思っております。

おかげさまで 12周年を迎えました ～健診部門「健診プラザ」から～

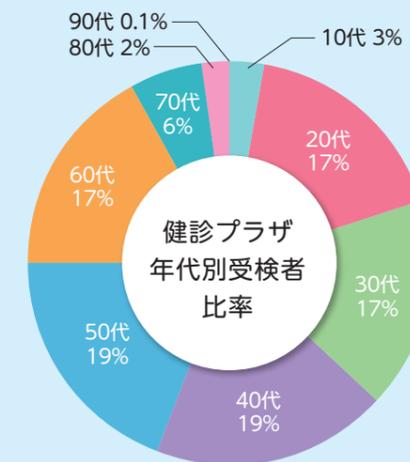
平成19年よりご利用いただきました「健康センター」から平成30年3月5日「健診プラザ」と名称を変更し新棟での健診を受け入れさせていただくようになり、早くも1年が過ぎました。

これも周辺地域住民の皆さまや企業の皆さまのおかげでございます。ありがとうございます。

平成30年度 健診プラザをご利用いただいた方の延べ人数は3,981名で、10代～90代まで幅広く健診を受けていただいております。

また職員の健康管理のためや自分の身体の健康に責任を持って健診を受けられている方が多くいらっしゃいます。

私たちは今後も、予防医学の観点から皆様の健康管理のお手伝いをさせていただきたいと思っております。



今年度は、健診システムを導入し検査結果から診察までの時間短縮に努めますと共に、検査値の異常があればご本人または職場へ紹介状を以前より早く送付することができるようになりました。

医師・検査技師・放射線技師・看護師・事務が一丸となり実践しています。

現在 全国健康保険協会(協会けんぽ)健診、雲仙市南島原市諫早市の特定健診 がん検診 雇用時健診、人間ドック(半日/1泊)他 特殊健康診断(石綿健診・じん肺健診・特定化学物質健診 有機溶剤等健診 船員手帳の健康証明 労災保険2次健診)等 各種健康診断を承っております。



皆様の 健康管理を お手伝い

お知らせ

今年は当院で、風しん抗体検査と定期予防接種を実施いたします。健診プラザでは、風しん抗体検査を行います。昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性には、自治体からクーポン券が届きます。クーポン券が届きましたら健診プラザまでご予約下さい。

上記 健康診断のご予約も 0957-27-5757まで

クーポン券在中

風しん抗体検査・定期予防接種のお知らせ

※イラストはイメージです。



サロン『すずらん』の紹介

当院の緩和ケアチームすずらんでは、病気や治療に伴うからだや心のさまざまな苦痛を和らげ、患者様やご家族にとって質の高い日々、意義深い日々が送れるように、そしていつかはあなたらしい最期を迎えられるように、様々な医療・支援を提供しています。がんの方だけでなく、難治性疾患や慢性心不全なども対象としています。2019年よりチーム活動の一つの目玉としてサロン『すずらん』を始めました。セルフケア・グループの一つの形であり、病院で提供する医療者による支援そのものよりも、参加する方々の相互交流を通して誰かを支える力の種が育まれるような場を願って誕生しました。がんと診断されたばかりの人から、治療中の人、治療によって治癒した人、進行期で緩和医療のみを継続している人、全ての人が参加できます。月に1回程度、患者様やご家族が集

まり、何気ない会話を楽しんだり、散歩を楽しんだり、音楽会を開催したりと計画しています。他の患者様と出会うことで刺激になったり、新しい価値観に気づくことができるかもしれません。先日には皆で諫早市の唐比八入園に散歩に行きました。すがすがしい天気にも恵まれ、心地よい風と景色を堪能しました。その後、屋根付きのベンチに集まり、カフェ気分でお菓子をつまみながら語り合いました。参加した患者様からは、いい気分転換になったとたいへん好評でした。今後も音楽会、クリスマス会、花見など、様々な企画を立てておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



岐伯鍼灸院院長だより

鍼通電療法でスッキリ
しませんか!?



残暑厳しい中、どのようにお過ごしでしょうか？
この暑く、湿気でじめじめした季節、気分がスッキリせず調子が悪い方がいらっしゃるのではないかと思います。

こんな時こそ、鍼灸はいかがでしょうか？
当院では、鍼専用の低周波治療器を用いて、鍼通電療法を行っております。

- まず、どのような効果があるといわれているのかというと、
- 鎮痛
 - 末梢循環の促進
 - 自律神経反応を介した正常化
 - 筋緊張の改善 等です。

鍼の刺激だけでも上記の効果は得られると言われていますが、低周波を用いて通電すると特に高い鎮痛効果が得られるようになります。

- そして、どのような症状に効果があると言われていたのか。
一般的によくある症状で言うと、
- 肩こり
 - 自律神経症状全般
 - 痛み症状全般
 - 頸椎ヘルニア
 - しびれ症状全般
- など、その他、様々な症状に対して効果があると言われています。

通電時間は、15分が妥当な通電時間であるとされています。
骨格や筋肉の循環促進が目的であれば5分でも十分でしょう。

鍼の通電は、深部の筋肉の凝りに、とても有効なので、気になられた方は一度、体験されるのも良いかもしれません。

岐伯鍼灸院



しまばら地域連携
施設研修会が
開催されました



長崎県島原病院主催による「2019年度しまばら地域連携施設研修会」が午前は愛野記念病院、午後はガイアの里を会場として7月19日に行われました。医療機関や介護施設から23名の参加があり、施設概要、施設内の取組みや退院支援の講義、施設内の見学をしていただきました。



利用者様の笑顔が
私たちのやりがいです!!

「ガイアの里から来んしゃったよ。」どのご自宅に訪問リハビリに伺った時にもご家族が利用者様によく掛けられている言葉です。この言葉を聞くと自分たちがいかに必要とされているかを改めて感じさせられます。利用者様の自宅生活での不安を少しでも解消できればという思いで訪問リハビリを行わせていただいております。家での暮らしがご家族が感じられる不安などをタイムリーに受け取ることができ、日々考えながらサービス提供にあたっています。訪問リハビリの利用を卒業され、通所リハビリで顔を合わせた時に笑顔がみられると私たちも自然と笑顔になります。これからも利用者様にたくさん笑顔になっていただけるよう支援していきたいと思っております。



健康は正しい食事から

8月4日「栄養の日」を前に、ガイアの里通所リハビリテーションにおいて栄養ワンドーのイベントを栄養科の実習生と共に開催しました。昼食前に「フレイルと食事について」という内容で、高齢者の食事の注意点や食事のとり方、リハビリとの関連について講話を行いました。また、昼食には、協賛企業からのヨーグルト・キウイを提供しました。

講話を聞いた利用者様から「わかりやすく良かったよ」「ご飯の量が人と違つとは、栄養のことをきちんと考えてくれとらさけんやったとね」「いつもおいしいご飯をありがとね」など、栄養や食事について興味を持ってもらえたこと、身近に相談できる管理栄養士・栄養士がいることの周知にもつながり良い機会となりました。

栄養ワンドーのイベントを通して、利用者様の真剣に講話を聞かれる様子や、笑顔で食事をされる様子を拝見し、改めて食事の役割や重要性に気づくことが出来たと思います。今後も利用者様の健康維持・増進の為においしい食事作りに努めて行きたいと思っております。

栄養の日

たのしく食べる、カラダよろこぶ

8/4 栄養の日 8/1→7 栄養週間

